

ラズパイ&マイコンで組み込みからシステム構築まで
センサ・データをゲートウェイ経由でクラウドへ

IoTシステム

構築塾

第3回 クラウドのセットアップと疎通確認

伊東 賢一

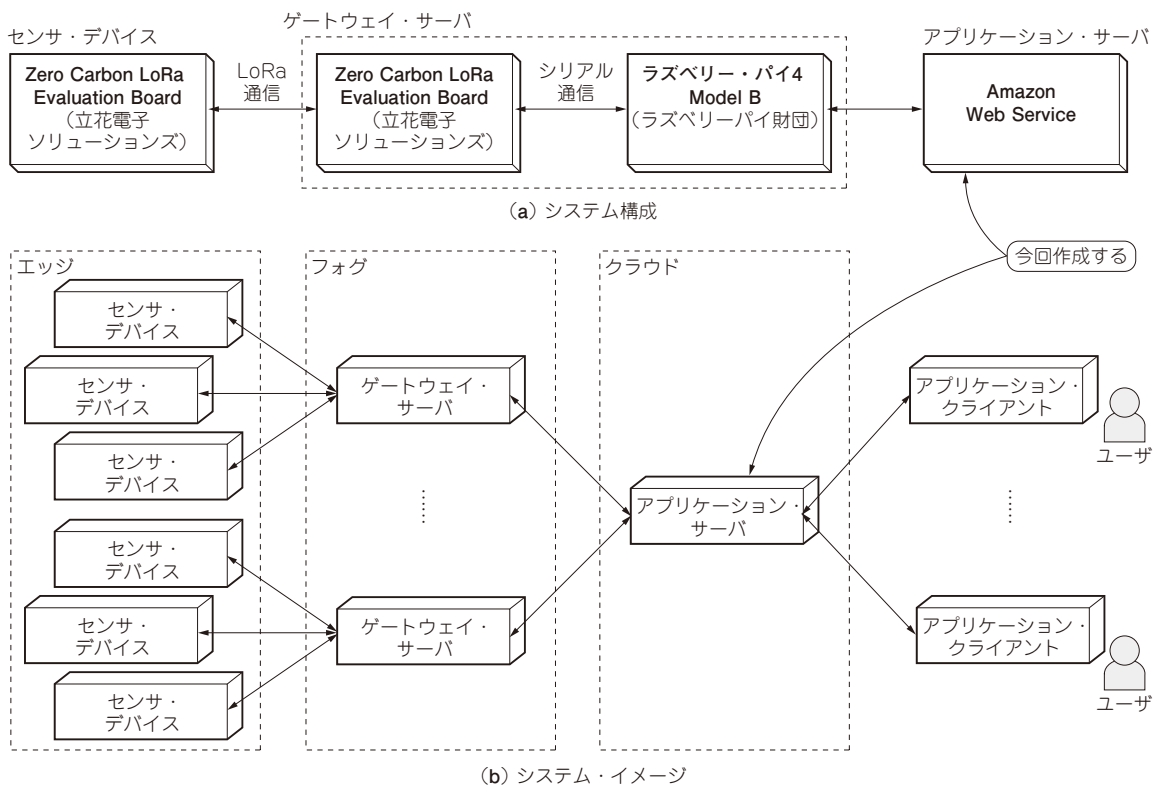


図1 本連載で構築するIoTシステムの全体像

組み込み分野からクラウドまで、広い範囲の要素技術をカバーする必要がある。本連載では、一通りの開発を体験して、全体を見通して開発する力を身につけることを目標とする

本連載では、IoT (Internet of Things) の代表的なアプリケーション事例の1つである環境モニタリング・システムを題材にして、エッジ・デバイスからサーバまで一通りの開発を体験しながら、図1に示すようなIoTシステム作りを学んでいきます。

前回 (2024年8月号) は、実際にエッジ・デバイスで動作するプログラムの開発を体験しました。今回は、エッジ・デバイスからデータを受信して蓄積するクラウド・システムを構築します。

1 IoTサーバ構築の準備

● 構築するサーバの全体像

今回は、初めてでも導入しやすいAWSのマネージド・サービスでシステムを構築します。サーバの分類やサービス提供の形態については、コラム1を参照してください。

図2に今回構築するサーバのシステム構成を示します。システムには、IoTデバイスからのデータを受信